

“Heart to Heart”

第4巻 第3号 (No.13)

発行日 平成22年3月6日

心から心へ わかちあう あたたかさ

表現するよろこびを味わって

武蔵野東教育センター所長 長内博雄

目次:

表現するよろこびを味わって	1
コラム： 自閉症教育のむかし、今 その四	2
療育プログラムのようなす	2/3
体を動かすことで頭の整理をし、 知識を増やしていきましょう	4
ご案内	4

この年度末、受講を終えて帰る親子の会話に、一年間を成し終えつつある充実感がこもっているようで、心なしかその声が弾んで聞こえてきます。事実、先の個人懇談では多くの方が、「一年間続けて通って来られて本当によかった」と感想を述べていました。最後をきちんと仕上げることは、必ずや次の飛躍の布石になっているに違いありません。

子どもたちは、また上級学年や入園・入学の新しい環境を迎えることとなります。まずは保護者の皆さんが、変わることへの抵抗感や先が見えないことへの不安を、「何事も大丈夫！」という気持ちに切り替えて、お子さんの新しい経験を支えてあげてください。

話は変わりますが、先日とある駅前のバス停で、小学校1、2年生位の女の子がご婦人と手話で話しているところに出会いました。その少女は、何か時間を惜しむかのように相手に話しかけています。少女のお母さんとご婦人の会話から、そのご婦人は偶然通りかかった方で、手話の講師をしていることがわかりました。私と同じバスに乗ったその少女は、見送ってくれているご婦人になおも窓越しに話しかけます。「どうして、知った？」「どうして？」「また、会える？」と、バスが発車するまで、手話とともに今度は不確かな発音の片言を発しながら、問いかけていました。

ふだん少女が話せる相手は、きっと家族や学校の先生などに限られているだろう。あのご婦人はお母さんと彼女のやりとりを見て、何か手話で話しかけたに違いない。少女は思いもかけずよその人と手話を交わすことができて、本当にうれしかったのだ。「どうして知った？」というのは、「どうして手話ができるの？」という意味ではないだろうか…。私は、

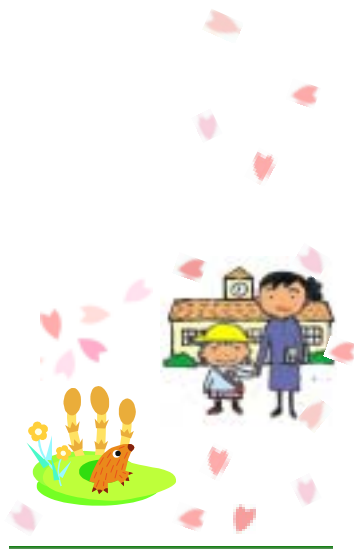
コミュニケーションを求めてやまない少女の思いを、心の中で追っていました。

そして思考は巡り、うちの子供たちへと移ります。自分を表現しきれないあの子たちのストレスははかり知れない。そのストレスからさまざまな行動も出てこよう。人を試したり怒ったり、また無気力になったりと。彼らの心が長いこと受け止められなかった時に、ねじれた行動が見られたとしても不思議ではない…。自分というものを、何かの形で表現できることの重みを、改めて思われます。

自分を表現するということは、生きるということそのもの、と言っても決して嘘ではないでしょう。その表現とは、当然ながら会話やコミュニケーションに限ることではなく、意志を働かせて行うすべての活動を指しています。それが何であれ、自分を表現することは、生きているという実感に伴います。

「社会への適応力」を育てることは、重要な目標の一つですが、主体者である本人の心の動きを視野に入れながら、進めることが大切です。簡単なことでもできるようになる。それが楽しくなって上手になる。時に周囲をあっと言わせるような才能を発揮したりもする。日々の生活の中に、表現するよろこび、生きるよろこびの場があります。より創造的な自己表現は、豊かな人生の大切な要素となり得るでしょう。会話による表現の他に、絵、工作、音楽、作文、詩、陶芸、手芸、舞踊、スポーツ、労働その他自分の思いを刻む方法は、日常の生活の中に限りなくあります。

教育センターの活動の中にも、そのようなきっかけとなるものが多く含まれています。新年度を、また前向きに創り上げる気持ちで迎え、子どもとともに歩んでまいりましょう。





コラム 障害児教育にたずさわって(4)

「自閉症教育のむかし、今」その四 大南 英明(学園アドバイザーボード、放送大学客員教授)

養護学校教育の義務制が実施された後、知的障害養護学校・特殊学級で、自閉症と知的障害の重複の児童生徒の教育が行われてきました。文部省の実験学校、研究指定校において、自閉症の児童生徒の指導内容・方法が研究されましたが、全国的に普及するまでには至らなかったように思います。

平成5年より実施された通級による指導により、自閉症・情緒障害の児童生徒に対する教育の形態が拡大されましたが、地域的に限定されたようです。

平成13年1月「21世紀の特殊教育の在り方について」の報告が出され、LD、ADHD、高機能自閉症に対する教育の

必要性が提言の一つとしてまとめられ、注目を浴びることになりました。この報告を契機として、発達障害への関心が高まり、平成18年に学校教育法施行規則が改められ通級による指導の対象となる障害が拡大されるとともに、情緒障害と自閉症とが別に表記されることになりました。長い間、情緒障害の中で、説明されてきた自閉症が、ひとつの障害として認められたことは、自閉症教育にとって大きな転機であるといえます。

さらに、平成19年12月に4月2日を世界自閉症啓発デーに定める決議が採択され、我が国でも4月2日に

イベントが開催されています。そして、平成21年2月には、文部科学省より通知が出され、これまで使われてきた情緒障害特別支援学級(特殊学級)の名称を「自閉症・情緒障害特別支援学級」に改めることになりました。

今後は、制度上の転期を契機に、指導内容・方法についての実践研究が、全国的に広がることを期待しています。4回の連載をお読みいただけたことを心から感謝いたします。



療育プログラムのようす

ダンス教室 一年間のまとめとしてミニ発表会を行ないました。4月から続けてきた「ウォーミングアップ」と、3ヶ月にわたって練習してきた作品を立派に披露することができました。東学園の創立者のことばに「発表する喜びを感じることで子どもたちは成長する…」とあります。お母様方や、たくさんの友だちからの声援にこたえるように見せていた最高の笑顔と踊りっぷりは、まさにその言葉を象徴するものでした。衣装を着けると、身も心も一変しステキなダンサーに…。女の子らしさを磨けるのもこの教室ならではの。次回の発表をお楽しみに。(新堂)



お気に入りの衣装で「はい、ポーズ！」

体育教室 全学年ともマット運動に取り組んでいます。先日、保護者から「去年に比べ、真っ直ぐに前転できるようになった」、「回転後の起き上がりが速くなった」といった感想をいただく機会がありました。一年前にやって以来の体験にもかかわらず、どうして急にスキルが上がったのだろうかという疑問をもたれたようでした。それを聞いたとき、年間で徹底して続けてきた「基本運動」がそうした成長を助けたのではないかと思いました。前転を行うためには、それに付随した細かな体の操作、連携が必要です。地道に取り組んできた体力づくりの成果を感じ、嬉しくなりました。(鈴木)



「いくよー 肘伸ばして」

言語プログラム 1年を通してそれぞれの子どもにあった課題に取り組んできました。手遊びや歌を取り入れたことにより、作れる音が増えたり、音読や口腔運動を繰り返すことにより、少しずつ聞き取りやすい音で話することができるようになりました。「目を閉じる」「口を大きく開ける」などやってほしいポーズを自分で考えて相手に指示する活動も行いました。わざとポーズを誤ると「ちがう、右手」などと相手に間違いを指摘することができるようになりました。また、キャッチボールや肩たたきなどの設定した状況に合わせてやりとりをすることで、相手に合わせて会話を変えていくことを学び、会話が長く続くようになってきました。それぞれに成長が見られた1年でした。(計野)



さあ、色々な音を作るう!

音楽教室 音楽を聴く・演奏する・表現する楽しみの幅を広げることを目指すとともに、歌唱・器楽・リズムなどの技術の向上に努めてきました。特に幼児は、エコーマイクや鏡を使用することで口の動きや形、声を出すことへの興味を深め、発声できる音の幅が広がりました。1・2年は、ハンドサインや階名唱を通して音程やリズムを確認しながら旋律を覚え、鍵盤ハーモニカに取り組みました。1本の指で始めた演奏も、今では5本の指で弾けるようになりました。3・4年は、リコーダーを通じて音の強弱や息のコントロール、左手の運指がスムーズにできるようになりました。全員の奏でる音の一つの綺麗な音色になります。(児玉・後藤)



エコーマイクで「やっほー！」

このコラムは4回シリーズでお届けしました。



幼児 「おはようございます」と元気いっばいの声が聞こえるようになりました。プログラム初日とは見違えるような自信に満ち溢れた表情です。着替えや身支度は、一人でできる部分がずいぶん増えました。また、のりやはさみなども繰り返し練習することで、進んで取り組めるようになりました。そして、なによりも大切な仲間ができました。名前を覚え、欠席の友だちを心配したり、「ちゃん、こっちだよ」と言われて相手と手をつなぎ、少しずつ仲間意識が芽生えてきました。恥ずかしくて歌えない発表も友だちと一緒にならできてしまう「不思議なパワー」。これからも子どもたちと一緒にパワーを育てていきたいと思えます。(児玉、神音)



幼児「一緒に歌えたよ！」

1年生 ひらがなやカタカナ、漢字、足し算、引き算、時計、長さ、形...いろいろな“初めて”に挑戦してきた一年生。大きかった机も、今ではピッタリサイズになりました。「～くん、お休みだね。」「一緒に帰ろう。」「ごめんね。」「ありがとう。」そんな友だちとの会話が聞こえてくると、この一年の成長を感じます。後期のまとめとして「お店屋さんごっこ」をします。今までに行った100までの数やお金、もの名前や仲間分けの学習を活かし、お財布からお金を取り出すことや買い物の手順、ことばのやりとり、商品づくりなど、数回に渡って取り組んできています。「お店屋さんごっこ」では、上手に売り買いができるでしょうか？「いらっしやい！」「まいどあり！」今日も元気に練習しています。(北川、本田)



1年 ただ今、商品製作中

2年生 この1年間で、学習面でも運動面でも力をつけた子どもたち。授業中の姿勢や、発表の仕方など、一つ一つ声かけが必要だったことも、少ない声かけでできるようになりました。算数では「お金」の学習を行い、2、3種類の硬貨を使って指定された金額を出せるようになってきました。国語では、「いつ」「どこ」「だれ」に続いて「どんな」を問われる文章読解を学習しました。前期に学習した、様子や気持ちを表す言葉も復習しながら取り組みました。体育では、やわらかいカラフルな布を使った活動を行っています。ボールだと速すぎて目で追うのが難しい動きも、布を使うことで楽しみながら活動できました。いよいよ2年生も残りわずか。『どんな』3年生になるのか楽しみです。(後藤、鈴木)



2年 上に投げた布をキャッチ



3年 正方形を組み立てると？

3年生 算数では、「箱の形」を学習しました。一つの面を見せて「長方形」や「正方形」の名まえを確認した後、立体の箱を作ると子どもたちは興味津々。早速、自分でも箱を組み立ててみたいと元気よく挙手してくれました。いざ、チャレンジしてみると力加減を調節しなければならないため、「ちょっと難しい」との声も聞かれました。国語では、『モチモチの木』を学んでいます。毎回、紙芝居であらすじを確認してきたことで、物語の順に絵を並べることや、絵を見て状況を話すことができるようになりました。4月からは4年生。これからの活躍を期待しています。(入江)



4年 コンパス画

4年生 国語は物語の読解問題や季節の行事、絵に吹き出しを入れて「何と言っているか」を考える学習に力を入れてきました。絵の場面を体験とむすびつけて、「先生、これはどうかなあ。」などどうれしそりに書き込んでいました。算数では「資料の整理」や「お金」の学習を行いました。資料の整理では、「正の字」を使ってたくさんのデータを学年や男女別に整理しました。自分で表をチェックしながら整理する姿はまさに真剣そのもの。鉛筆の音しか聞こえないくらいでした。また、学習したことをゲームに活かそうと「ジャンケンゲーム」(二人組でジャンケンをして勝った回数を「正の字」で記録し10回勝ったら勝利)に取り組み、大いに盛り上がりました。あっという間の1年でしたが、一人ひとりの子どもたちが本当によくがんばり力をつけることができました。(宮下)



5・6年 劇練習の様子

5・6年生 今年度取り組んできた学習として、「お小遣い帳をつける」「地図の見方」「案内図の見方」「コンピュータ」「清掃の仕方」「磁石を使って遊ぼう」「インスタント食品作り」など、国語や算数にとどまらず社会科や理科に関する内容にも挑戦してきました。体験を通して、興味の幅を広げ、楽しみながら生活力を身につけることができました。そして、1年間のまとめとして行った「注文の多い料理店」の劇発表を保護者の方の前で行いました。学校と違い規模は小さいのですが、発表の場を設けることで自信を深めることができました。(藤本)



クラスごとに新聞を作りました

コンピュータ教室 タイピングやインターネット、WordやExcelの使い方など、コンピュータのさまざまな活用の仕方を学んできました。そして、今までに学んだことを振り返るまとめの活動として『新聞作り』を行いました。主な記事の内容は「コンピュータ教室で学んだこと」です。習ったことを思い出しながら、分担して作業を進めることができました。プログラムを通して、コンピュータを扱う技術の上達はもちろん、興味も広がったのではないかと思います。これからもコンピュータの学習に興味を持ち、さまざまな活用法を覚えていってくれることを願っています。(大澤)



体を動かすことで頭の整理をし、知識を増やしていきましょう

副所長 計野 浩一郎

今年度もあと少しで終わろうとしています、どんな一年でしたでしょうか。日々整理できないほどのたくさんの情報の中で、あれもこれもとやらなくてはならないことに追われ、1日が長いようで短く、あっという間の1年だったのではないのでしょうか。

これまでに子育てに追われ、あれもこれも忘れてはいけなと次から次へと情報を入れ、整理ができず大切なことを見失うという経験をされたことがあったのではないかと思います。しかし、そのときの辛かったことも時が経ってみると、そのマイナス面があったからこそ、今の成長があるのだと気づく瞬間があるのは、記憶がまだら模様であり、情報の整理がなされたからだだと思います。

外山滋比古さんの『忘却の整理学』の中に「忘却によって整理され、きれいになった頭で新しい知識、情報を取り入れる。それで記憶がはたらくのである。」とありますが、忘却という整理がなされないまま、次から次へと日々情報を入れたために、適切な判断が阻害されていることが私たちの生活には多々あるように思われます。情報は入れるだけでは限界があり、忘却という整理が必要ということです。思いや感情、悩みなどはどんどん発散しないと精神ばか

りでなく、肉体的にも害をうけることになりますので、忘れることによる整理をし、気分を変えつつ情報を取り入れていく工夫が必要なのだと思います。

同様に子どもたちも勉強という覚える活動が多く、たくさん詰め込むことが良いことで忘れることは悪いことと教えられ、この1年を過ごしてきたのではないかと思います。記憶には限界があります。整理されないまま多く情報を詰め込んでも、関連性などが希薄になり忘れてしまいます。整理された頭で覚えようとしないとネットワークが構築されず、重要なことも忘れてしまうものです。

教育センターの療育は、ただ単に情報を詰め込むだけでなく、スケジュールの合間に体育・音楽・図工など心や体を動かす活動を入れ、整理された頭で情報が吸収できるように組み立てています。ご家庭においても、勉強で詰め込んだ情報を沈黙・整理するために、遊ぶ・運動する・音楽を楽しむ・お手伝いなどという勉強とは違う活動を学習の合間に取り入れると効果的です。気分を一新し、頭脳を清明にしながら、勉強に取り組めるようにスケジュールを組んであげてほしいと思います。来年度もよろしく願います。

セミナーのご案内

平成22年度のセミナーの日程が決まりましたのでご案内いたします。

- ・平成22年 6月25日(金)10時~12時
「障害のある人ときょうだい・家族について考える」
田部井 恒雄(全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会会長)
諏方 智広(横浜きょうだいの会代表)
- ・平成22年 9月24日(金)10時~12時
「視覚機能問題への支援」
築田 明教(かわばた眼科 視覚発達支援センター)
- ・平成22年11月19日(金)10時~12時
「ことばを広げる」(仮題)
三好 純太(葛西ことばのテーブル)

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>

教育相談・電話相談のご案内

遠方の方々や、来所するのが難しいという皆様のために、電話での教育相談も始めました。詳細はお問い合わせください。

保護者勉強会のご案内

当センターのスタッフが専門性を生かして、受講者の保護者の皆さんに直接お話しさせていただく機会を設けております。平成22年度は、以下の日程で実施いたします。

- 6月17日(木)10~12 計野 ちあき 「コミュニケーションに必要なこと」
鈴木 裕磨 「家庭でできる筋力トレーニング」
- 7月16日(金)10~12 藤本 省司 「生活自立に向けて」、児玉 奈都子 「家庭で取り組める音楽活動」
- 9月8日(水)10~12 大澤 徹也 「知能検査を学習に活かす」、後藤 千穂 「余暇としての音楽」